

# 地域における薬育活動の普及推進事業

## 北多摩西部保健医療圏

<b>実施年度</b>	開始 令和元年度 終了（予定） 令和3年度
<b>背景</b>	近年、かかりつけ薬局や健康サポート薬局の制度により、地域における薬剤師等が住民への医薬品の適正使用等の普及について役割を担うことが求められている。 学校薬剤師や薬局薬剤師等を支援し、薬に関する正しい使い方や副作用などの知識を子供に教える「薬育」や地域住民向けの普及啓発の拡大を図ることにより、医薬品適正使用や薬物乱用防止につなげることができる。
<b>目標</b>	・薬剤師等による地域における医薬品の適正使用等に関する普及啓発の現状及び課題に関する調査を行い、必要な支援策を検討する（令和元年度）。 ・標準教材の提供、先行事例の紹介、研修会の開催等により薬剤師による地域活動を支援し、医薬品の適正使用に関する知識普及の取組の充実を図る（令和元年度から令和3年度まで）。
<b>事業内容</b>	1 薬局等による地域活動の現状、課題に関する調査（令和元年度） 圏域内の薬局や店舗販売業に勤務する薬剤師等に対して、薬育等の活動の実施状況、健康サポート薬局申請に関する意向、地域活動を行う上での課題等をアンケート調査し、必要な支援策を検討する。 2 普及啓発（令和元年度から令和3年度まで） 小中学校校長会における説明や保健所広報紙等により、小学校における薬育の推進、薬剤師による地域住民向けの取組の促進について普及啓発を行う。 3 関係者向け研修会の開催（令和元年度から令和3年度まで） 教材や先行事例を関係機関、圏域の薬剤師等に周知するとともに、小学校における薬育の推進、薬剤師による地域住民向けの取組の促進について働きかけを行う。また、希望者を募り研修会を開催することで、地域活動のノウハウや講師を担う上で必要な知識を付与し、取組を支援する。
<b>評価</b>	1 薬局等による地域活動の現状、課題に関する調査 地域活動の現状及び課題の調査により、薬育や地域活動に積極的な薬剤師が多くいる一方、講師及び教材の確保に課題があることが把握できた。そのため、全国規模で薬教育を推進している一般社団法人くすりの適正使用協議会との連携・協力を図り、薬育活動を実施したいが実施できていない薬剤師等を支援していくこととした。 2 関係者向け研修会の開催 令和2年2月、1により支援策として要望の多かった薬育研修会を開催した。薬教育に長年携わっている大学薬学部教授による薬育の必要性や薬育授業の展開例についての講演、また、一般社団法人くすりの適正使用協議会の講師による当協議会の活動及び他市の取組状況や各種教材についての講演を行った。 出席者からのアンケートでは、薬育の普及のために必要だと思う取組について、「低学年からの積み重ねが重要だと思う。」や「薬育はどの年代にも必要とすることで勇気づけられた。」などの意見があり、「薬育を実施してみたいと思ったか。」では「思った。」の回答が76%あった。  1及び2を踏まえた上で、圏域の薬剤師等に対して必要とされる支援を行い、地域における薬育活動のより一層の推進を図っていく。
<b>問合せ先</b>	多摩立川保健所 生活環境安全課 薬事指導担当 電話 042-524-5171（代表） ファクシミリ 042-528-2777 E-mail S0200165@section.metro.tokyo.jp

## 1 はじめに

多摩立川保健所では、平成28年度から令和元年度まで「北多摩西部地域保健医療協議会生活衛生部会 薬事分科会」（以下『薬事分科会』という。）において、「小・中学生に対する『薬育』について」をテーマとして取り上げ、薬育活動に対する現状、課題や対応策等について意見交換を重ねてきた。その中で、「消費者が医薬品の服用について自ら判断できる力を身に着けるためには、早い時期からの薬育が大切」、「印象的な絵を使用する、お芝居を交えるなど子供たちが興味をもてるよう工夫をすることで記憶に残る」、「学校では薬育を行う十分な時間の確保が難しいため、健康診断の時間など短い時間からでも始めることが重要」などの認識を共有した。

このような背景を踏まえ、令和元年度からの3か年事業として、「地域における薬育活動の普及推進事業」に取り組むこととした。

## 2 事業計画（令和元年度実施スケジュール）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			☆ 薬事分科会								
				調査票の発送・回収							
	調査票の検討							調査結果集計、まとめ			
	校長会等での薬育PR									☆ 薬育研修会	
			薬育教材の検討（薬剤師会中心）								

## 3 事業内容

### （1）薬局等による地域活動の現状、課題に関する調査（令和元年度）

#### 【調査実施概要】

目的：薬育等の活動の実施状況、健康サポート薬局申請に関する意向、地域活動を行う上での課題等を調査し、必要な支援策を検討するために実施

期間：令和元年9月9日（月曜日）から同年10月31日（木曜日）まで

方法：対象418件（薬局305件、店舗販売業113件）へ郵送配布、FAXにより回答、集計した。

有効回答：193件（薬局178件、店舗販売業15件）、回答率46.2%

#### 【調査項目】

I 「住民向け普及活動」（地域住民に対して行う医薬品の適正使用などの薬に関する研修会・講演活動）について

II 「薬育活動」（子供のうちから薬に関する正しい使い方や副作用などの知識を教える取組）について

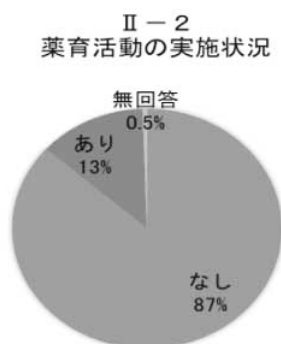
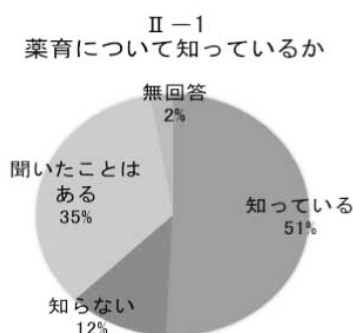
III健康サポート薬局の届出について（薬局のみ対象）

【調査結果（抜粋）】

I 「住民向け普及活動」について

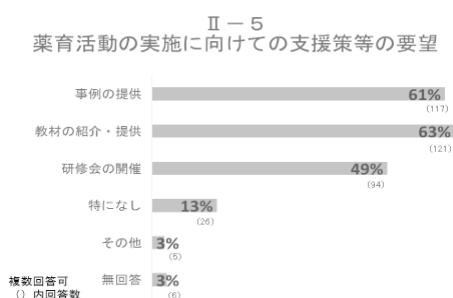
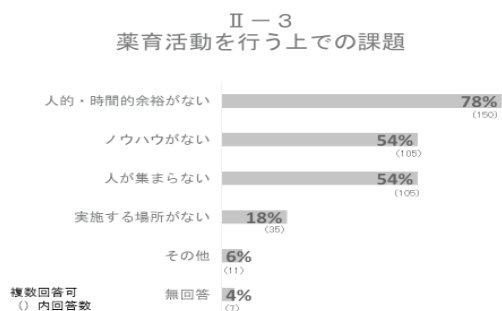
- ・実施状況：あり 20%、なし 80%
- ・薬の適正使用に関するテーマは副作用・飲み合わせについて、乳幼児への薬の飲ませ方及び高齢者の薬についてなどであった。
- ・住民向け普及活動実施なしの場合の理由：「実施したいと思うがまだできていない」が 53%、「依頼があれば実施したい」が 21%、そのほか「忙しすぎる」、「薬局内で毎日薬・健康相談に応じている」などの回答があった。
- ・住民向け普及活動を行う上での課題：「人的・時間的余裕がない」、「ノウハウがない」がほとんどであった。
- ・住民向け普及活動の実施に向けて支援策についての要望：「教材の紹介・提供」、「事例の提供」、「ノウハウ等を学ぶ研修会の開催」の順に多かった。

II 「薬育活動」について



- ・薬育活動実施なしの場合の理由：「実施したいと思うがまだできていない」が 47%、「依頼があれば実施したい」が 25%、そのほか「学校薬剤師がいないため、実施機会がない」、「考えたことがない」及び「薬育については知らなかった。学校薬剤師による講義については継続することが望ましいと思う」などの回答があった。

- ・薬育活動を行う上での課題では「人的・時間的余裕がない」が 78%、「ノウハウがない」、「人が集まらない」が 54%と同率であった。また、薬育活動の実施に向けて支援策についての要望では「教材の紹介・提供」、「事例の提供」、「ノウハウ等を学ぶ研修会の開催」の順に多かった。

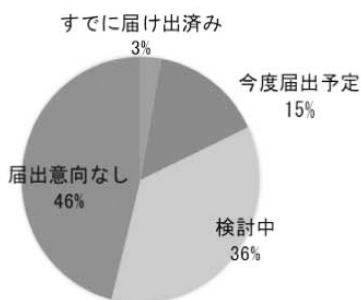


### Ⅲ健康サポート薬局の届出について（薬局のみ対象）

#### 1 届出に関する意向

「検討中」が36%、「今後届出予定」が15%であった

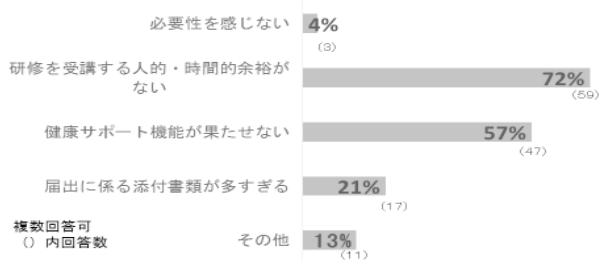
Ⅲ-1  
健康サポート薬局届出に関する意向



#### 2 届出に当たっての課題：

「研修を受講する人的・時間的余裕がない」が72%、「健康サポート機能が果たせない」が57%であった

Ⅲ-1-1  
健康サポート薬局届出意向なしの場合届出にあたっての課題



#### (2) 薬育教材の選定、検討、事例の収集（令和元年度から令和3年度まで）

令和元年度薬事分科会において、薬育や地域で行うセミナーなどにおいて活用できるように、ダウンロード可能な教材・事例リストや会員登録すれば使用可能な教材資料について情報共有した。「小学校高学年を対象とした“気づき”を与える薬育授業の構築と実施（昭和大学）」、「みんなでお薬かるた（城西大学薬学部）」及び「くすり教育担当者のための教材サイト（一般社団法人くすりの適正使用協議会）」などである。

#### (3) 普及啓発（令和元年度から令和3年度まで）

小中学校校長会での説明や保健所広報紙等により、小学校における薬育の推進及び薬剤師による地域住民向けの取組促進について普及啓発を行った。

##### ア 6市教育委員会への情報提供

校長会及び教育委員会生活指導主任会に出席し、薬育の意義や有効性について、多摩立川保健所では「薬育」の普及啓発に取り組んでいくことを情報提供した（令和元年度計9回実施）。

##### イ 保健所ギャラリーにおける企画展示

『展示テーマ「薬育って知っていますか？」について』

##### ウ 広報誌「健康だより2019vol.1」(令和元年7月発行分)による情報提供

「薬育って知っていますか??」

#### (4) 薬育活動の実施状況調査（令和元年度）

既に薬育活動に取り組んでいる薬局等の実施状況について調査を行った。

##### ア テーマ：お薬、飲み忘れた時どうしますか？～知っておきたい薬のあれこれ～

内容：薬ってなんだろう？→薬の役割とは、薬を飲み忘れた場合…どうすれば良い？

お子様に薬を上手に飲ませるには？～お薬の種類による工夫

対象者：地域住民（高齢者、小さい子供を持つ保護者向け）、参加人数：15名

周知方法：市のホームページなどの広報

特徴：市主催の「薬学講演会」である。以前は病気について、最近の子育て中の母親を対象とした話をしている。

イ テーマ：医薬品の適正使用及び薬物乱用防止

内容：昨年度の復習、説明書の読み方、病気になりにくい体とは

子供の薬と大人の薬（薬の働き、肝臓の働き、主作用と副作用）

対象者：小学生、参加人数：2年生 64名、4年生 64名、5年生 69名、6年生 72名

特徴：薬学部学生を講師とした学年ごとの薬育教室である。使用するスライドは低学年にはイラストやキャラクターを用い、児童の印象に残る工夫をしている。また、学年によっては参加型や実演方式を採用している。

ウ テーマ：薬の正しい使い方～かけがえのない自分・健康、輝く素敵な未来のために～

内容：なぜ薬を水で飲まなければならないのか～薬の飲み方について

薬の説明書を読むことの重要性

対象者：中学2年生、参加人数：約 130名

参考：講義終了後に理解度確認テストを実施

(5) 一般社団法人くすりの適正使用協議会との連携（令和元年度から令和3年度まで）

- ・健康だより（令和元年7月発行分）「薬育って知っていますか??」において、一般社団法人くすりの適正使用協議会及び公益社団法人日本薬剤師会が制作した「くすりは正しく使ってこそくすり」の画像を使用した。

- ・令和元年12月に一般社団法人くすりの適正使用協議会を訪問し、薬教育に関する活動実績、出前研修や学会出展した発表内容及び資料の貸出・実験の紹介などの話があり、保健所からは薬育に関する保健所の取組内容や状況説明を行った。

薬教育を実施できていない学校や薬局等に対して一般社団法人くすりの適正使用協議会がフォローやサポートをしていくことは可能であり、出前研修についてはノウハウの紹介や講義等の基本構成を提供できるとの説明があった。

- ・令和2年2月の薬育研修会において、一般社団法人くすりの適正使用協議会所有の「薬の運ばれ方」及び「薬の血中濃度」を説明したマグネパネル、錠剤・カプセル・人体の模型及び紙芝居を展示した。また、参考に他市の取組事例を紹介していただいた。

(6) 薬育研修会の開催（令和元年度）

目的：あらかじめ参加希望者を募り、地域活動のノウハウや講師を担う上での必要な知識を付与し、薬育活動の取組を支援する。

出席者：17名（小中学校の学校薬剤師及び各市薬剤師会会員等）

講師及び主な講演内容：

ア「効果的な薬物乱用防止教育につなげるために『薬育』に取り組んでみませんか？」

大学薬学部教授

- ・過去の体験から得た薬教育の大切さが薬育の原点であること。
- ・医薬品をめぐる社会の動きを背景に、自分で判断できる力を身につけることが大切  
→薬育ができる人材育成の取組
- ・学校薬剤師からの依頼による「発達段階別薬育プログラムの構築」など

イ「協議会として取り組んできたくすり教育のサポート」

一般社団法人くすりの適正使用協議会による講師

- ・学習指導要領改訂の方向性
- ・学級担任教諭、保健体育教諭、養護教諭に学校薬剤師が加わったティームティーチング(TT)の取組について
- ・他市における学校薬剤師による学校等との連携

アンケート結果について：

Q 1 薬育を実施してみたいと思ったか。

思った(13名)、どちらでもない(1名)、無回答(3名)

Q 2 薬育の実施予定はあるか。

ある(8名)、ない(7名)、無回答(2名)

Q 3 薬育の普及のために必要だと思う取組について

- ・学校で薬育に関する授業の時間がもっと取りやすくなると良い。
- ・市の教育委員会と教師・薬剤師会との話し合いの場を持つこと。
- ・学校だけでなく地域・自治会などにも薬育を普及させていく場があることに気づいた。今後、活動の場を広げていこうと思う。

Q 4 薬育研修会への意見、講演に対する感想等について

- ・若い薬学生に教育を担ってもらうことはとても良いと感じた。
- ・レジメなどの資料があれば活用できると思う。
- ・学校では担当薬剤師の力量に任されているので、標準的な授業を経験できると良い。



#### 4 次年度に向けて

令和元年度に実施した調査結果や薬育研修会のアンケート結果を踏まえ、必要な支援策を検討する。普及啓発では、先行事例や薬育授業に関するリーフレットの作成や関係者向け研修会を開催する。

また、薬剤師会、圏域内各市教育委員会及び一般社団法人くすりの適正使用協議会等と連携、協力して、圏域の薬剤師等に対して必要とされる支援を行い、地域における薬育活動の普及啓発の推進を図っていく。